

第7章 新規検査、予備検査、継続検査又は構造等変更検査	第8章 新規検査、予備検査、継続検査又は構造等変更検査 (改造等による変更のない使用過程車)
<p>7-96 その他の灯火等の制限</p> <p>7-96-1 装備要件</p> <p>自動車には、7-65 から 7-95 までの灯火装置若しくは反射器又は指示装置と類似する等により他の交通の妨げとなるおそれのある次の灯火又は反射器を備えてはならない。</p> <p>なお、アンサーバック機能を有する灯火については、視認等によりその作動状況の確認ができない場合は審査を省略することができる。(保安基準第 42 条関係、細目告示第 62 条第 1 項関係、細目告示第 140 条第 1 項関係)</p> <p>(1) 自動車には、次に掲げる灯火を除き、後方を照射し若しくは後方に表示する灯光の色が橙色である灯火で照明部の上縁が地上 2,500mm 以下のもの又は灯光の色が赤色である灯火を備えてはならない。(細目告示第 62 条第 2 項、細目告示第 140 条第 2 項)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 側方灯 ② 尾灯 ③ 後部霧灯 ④ 駐車灯 ⑤ 後部上側端灯 ⑥ 制動灯 ⑦ 補助制動灯 ⑧ 方向指示器 ⑨ 補助方向指示器 ⑩ 非常点滅表示灯 ⑪ 緊急制動表示灯 ⑫ 後面衝突警告表示灯 ⑬ 緊急自動車の警光灯 ⑭ 火薬類又は放射性物質等を積載していることを表示するための灯火 ⑮ 旅客自動車運送事業用自動車の地上 2,500mm を超える高さの位置に備える後方に表示するための灯火(後部上側端灯を除く。) ⑯ 一般乗合旅客自動車運送事業用自動車の終車灯 ⑰ 一般乗用旅客自動車運送事業用自動車の空車灯及び料金灯 ⑱ 旅客自動車運送事業用自動車の非常灯 ⑲ 旅客自動車運送事業用乗合自動車の車椅子昇降用ステップリフトに備える赤色の灯火であって運転者席で点灯できないもの ⑳ 労働安全衛生法施行令(昭和 47 年政令第 318 号)第 1 条第 1 項第 8 号に規定する移動式クレーンに備える巻過防止装置、過負荷防止装置又は過負荷防止装置以外の過負荷を防止するための装置と連動する灯火 ㉑ 緊急自動車及び道路維持作業用自動車に備える他の交通に作業中であることを表示する電光表示器 ㉒ 運転者異常時対応システムが当該自動車を制御していることを他の交通に対して表示するための電光表示器 ㉓ イモビライザ及び盗難発生警報装置の設定状態を灯光により通知する装置であって、車室外に備えるもの(光度が 0.5cd を超えないものであり、かつ、見かけの表面の表面積が 20cm²以下のものに限る。) ㉔ アンサーバック機能を有する灯火 ㉕ 走行中に使用しない灯火 <p>(2) 自動車には、次に掲げる灯火を除き、後方を照射し又は後方に表示する灯光の色が白色である灯火を備えてはな</p>	<p>8-96 その他の灯火等の制限</p> <p>8-96-1 装備要件</p> <p>自動車には、8-65 から 8-95 までの灯火装置若しくは反射器又は指示装置と類似する等により他の交通の妨げとなるおそれのある次の灯火又は反射器を備えてはならない。</p> <p>なお、アンサーバック機能を有する灯火については、視認等によりその作動状況の確認ができない場合は審査を省略することができる。(細目告示第 218 条第 1 項関係)</p> <p>(1) 自動車には、次に掲げる灯火を除き、後方を照射し若しくは後方に表示する灯光の色が橙色である灯火で照明部の上縁が地上 2,500mm 以下のもの又は灯光の色が赤色である灯火を備えてはならない。(細目告示第 218 条第 2 項)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 側方灯 ② 尾灯 ③ 後部霧灯 ④ 駐車灯 ⑤ 後部上側端灯 ⑥ 制動灯 ⑦ 補助制動灯 ⑧ 方向指示器 ⑨ 補助方向指示器 ⑩ 非常点滅表示灯 ⑪ 緊急制動表示灯 ⑫ 後面衝突警告表示灯 ⑬ 緊急自動車の警光灯 ⑭ 火薬類又は放射性物質等を積載していることを表示するための灯火 ⑮ 旅客自動車運送事業用自動車の地上 2,500mm を超える高さの位置に備える後方に表示するための灯火(後部上側端灯を除く。) ⑯ 一般乗合旅客自動車運送事業用自動車の終車灯 ⑰ 一般乗用旅客自動車運送事業用自動車の空車灯及び料金灯 ⑱ 旅客自動車運送事業用自動車の非常灯 ⑲ 旅客自動車運送事業用乗合自動車の車椅子昇降用ステップリフトに備える赤色の灯火であって運転者席で点灯できないもの ⑳ 労働安全衛生法施行令(昭和 47 年政令第 318 号)第 1 条第 1 項第 8 号に規定する移動式クレーンに備える巻過防止装置、過負荷防止装置又は過負荷防止装置以外の過負荷を防止するための装置と連動する灯火 ㉑ 緊急自動車及び道路維持作業用自動車に備える他の交通に作業中であることを表示する電光表示器 ㉒ 運転者異常時対応システムが当該自動車を制御していることを他の交通に対して表示するための電光表示器 ㉓ イモビライザ及び盗難発生警報装置の設定状態を灯光により通知する装置であって、車室外に備えるもの(光度が 0.5cd を超えないものであり、かつ、見かけの表面の表面積が 20cm²以下のものに限る。) ㉔ アンサーバック機能を有する灯火 ㉕ 走行中に使用しない灯火 <p>(2) 自動車には、次に掲げる灯火を除き、後方を照射し又は後方に表示する灯光の色が白色である灯火を備えてはな</p>

第7章 新規検査、予備検査、継続検査又は構造等変更検査	第8章 新規検査、予備検査、継続検査又は構造等変更検査 (改造等による変更のない使用過程車)
<p>らない。</p> <p>この場合において、指定自動車等に備えられた車体側面に備える白色の灯火（いわゆるコーチランプ）と同一の構造を有し、かつ、同一の位置に備えられた白色の灯火は、この基準に適合するものとする。（細目告示第 62 条第 3 項関係、細目告示第 140 条第 3 項）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 低速走行時側方照射灯 ② 番号灯 ③ 後退灯 ④ 室内照明灯 ⑤ 一般乗合旅客自動車運送事業用自動車の方向幕灯及び行先等を連続表示する電光表示器 ⑥ 一般乗用旅客自動車運送事業用自動車の社名表示灯 ⑦ 運転者異常時対応システムが当該自動車を制御していることを他の交通に対して表示するための電光表示器 ⑧ 運転者席で点灯できない作業灯 ⑨ 運転者席において点灯状態であるため走行してはならないことを確認できる装置（ON/OFF が容易に確認できる構造のスイッチを含む。）を備えた作業灯（走行装置に動力を伝達できる場合にのみ点灯できる構造のものを除く。） ⑩ イモビライザ及び盗難発生警報装置の設定状態を灯光により通知する装置であって、車室外に備えるもの（光度が 0.5cd を超えないものであり、かつ、見かけの表面の表面積が 20cm²以下のものに限る。） ⑪ アンサーバック機能を有する灯火 ⑫ 走行中に使用しない灯火 <p>(3) 自動車（一般乗合旅客自動車運送事業用自動車を除く。）の前面ガラスの上方には、灯光の色が青紫色である灯火を備えてはならない。（細目告示第 62 条第 4 項、細目告示第 140 条第 4 項）</p> <p>(4) 自動車の前面ガラスの上方には、速度表示装置の速度表示灯と紛らわしい灯火を備えてはならない。（細目告示第 62 条第 5 項、細目告示第 140 条第 5 項）</p> <p>(5) 自動車には、次に掲げる灯火を除き、点滅する灯火又は光度が増減する灯火を備えてはならない。（細目告示第 62 条第 6 項、細目告示第 140 条第 6 項）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 曲線道路用配光可変型前照灯 ② 配光可変型前照灯 ③ 昼間走行灯 ④ 側方灯 ⑤ 方向指示器 ⑥ 補助方向指示器 ⑦ 非常点滅表示灯 ⑧ 緊急制動表示灯 ⑨ 後面衝突警告表示灯 ⑩ 緊急自動車の警光灯 ⑪ 道路維持作業用自動車の灯火 ⑫ 自主防犯活動用自動車の青色防犯灯 ⑬ 一般乗合旅客自動車運送事業用自動車に備える行先等を連続表示する電光表示器 ⑭ 非常灯（旅客自動車運送事業用自動車に備えるもの又は室内照明灯と兼用するものに限る。） ⑮ 労働安全衛生法施行令（昭和 47 年政令第 318 号） 	<p>らない。</p> <p>この場合において、指定自動車等に備えられた車体側面に備える白色の灯火（いわゆるコーチランプ）と同一の構造を有し、かつ、同一の位置に備えられた白色の灯火は、この基準に適合するものとする。（細目告示第 218 条第 3 項関係）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 低速走行時側方照射灯 ② 番号灯 ③ 後退灯 ④ 室内照明灯 ⑤ 一般乗合旅客自動車運送事業用自動車の方向幕灯及び行先等を連続表示する電光表示器 ⑥ 一般乗用旅客自動車運送事業用自動車の社名表示灯 ⑦ 運転者異常時対応システムが当該自動車を制御していることを他の交通に対して表示するための電光表示器 ⑧ 運転者席で点灯できない作業灯 ⑨ 運転者席において点灯状態であるため走行してはならないことを確認できる装置（ON/OFF が容易に確認できる構造のスイッチを含む。）を備えた作業灯（走行装置に動力を伝達できる場合にのみ点灯できる構造のものを除く。） ⑩ イモビライザ及び盗難発生警報装置の設定状態を灯光により通知する装置であって、車室外に備えるもの（光度が 0.5cd を超えないものであり、かつ、見かけの表面の表面積が 20cm²以下のものに限る。） ⑪ アンサーバック機能を有する灯火 ⑫ 走行中に使用しない灯火 <p>(3) 自動車（一般乗合旅客自動車運送事業用自動車を除く。）の前面ガラスの上方には、灯光の色が青紫色である灯火を備えてはならない。（細目告示第 218 条第 4 項）</p> <p>(4) 自動車の前面ガラスの上方には、速度表示装置の速度表示灯と紛らわしい灯火を備えてはならない。（細目告示第 218 条第 5 項）</p> <p>(5) 自動車には、次に掲げる灯火を除き、点滅する灯火又は光度が増減する灯火を備えてはならない。（細目告示第 218 条第 6 項）</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 曲線道路用配光可変型前照灯 ② 配光可変型前照灯 ③ 昼間走行灯 ④ 側方灯 ⑤ 方向指示器 ⑥ 補助方向指示器 ⑦ 非常点滅表示灯 ⑧ 緊急制動表示灯 ⑨ 後面衝突警告表示灯 ⑩ 緊急自動車の警光灯 ⑪ 道路維持作業用自動車の灯火 ⑫ 自主防犯活動用自動車の青色防犯灯 ⑬ 一般乗合旅客自動車運送事業用自動車に備える行先等を連続表示する電光表示器 ⑭ 非常灯（旅客自動車運送事業用自動車に備えるもの又は室内照明灯と兼用するものに限る。） ⑮ 労働安全衛生法施行令（昭和 47 年政令第 318 号）

第7章 新規検査、予備検査、継続検査又は構造等変更検査	第8章 新規検査、予備検査、継続検査又は構造等変更検査 (改造等による変更のない使用過程車)
<p>第1条第1項第8号に規定する移動式クレーンに備える巻過防止装置、過負荷防止装置又は過負荷防止装置以外の過負荷を防止するための装置と連動する灯火</p> <p>⑯ 点滅又は光度の増減を手動によってのみ行うことができる構造を有する灯火</p> <p>⑰ 指定自動車等に備えられたものと同一の構造を有し、かつ、同一の位置に備えられた可変光度制御機能を有する灯火（尾灯、後部霧灯、後部上側端灯、制動灯、補助制動灯又は自動車の後面に備える方向指示器に限る。）及び光度可変型前部霧灯</p> <p>⑱ 法第75条の2第1項の規定に基づき指定を受けた特定共通構造部に備えられている可変光度制御機能を有する灯火（尾灯、後部霧灯、後部上側端灯、制動灯、補助制動灯又は自動車の後面に備える方向指示器に限る。）及び光度可変型前部霧灯又はこれに準ずる性能を有する可変光度制御機能を有する灯火（尾灯、後部霧灯、後部上側端灯、制動灯、補助制動灯又は自動車の後面に備える方向指示器に限る。）及び光度可変型前部霧灯</p> <p>⑲ 法第75条の3第1項の規定に基づき指定を受けた可変光度制御機能を有する灯火（尾灯、後部霧灯、後部上側端灯、制動灯、補助制動灯又は自動車の後面に備える方向指示器に限る。）及び光度可変型前部霧灯又はこれに準ずる性能を有する可変光度制御機能を有する灯火（尾灯、後部霧灯、後部上側端灯、制動灯、補助制動灯又は自動車の後面に備える方向指示器に限る。）及び光度可変型前部霧灯</p> <p>⑳ 路線を定めて定期に運行する一般乗合旅客自動車運送事業用自動車及び一般乗用旅客自動車運送事業用自動車に備える旅客が乗降中であることを後方に表示する電光表示器</p> <p>㉑ 緊急自動車及び道路維持作業用自動車に備える他の交通に作業中であることを表示する電光表示器</p> <p>㉒ 運転者異常時対応システムが当該自動車を制御していることを他の交通に対して表示するための電光表示器</p> <p>㉓ 制動灯及び補助制動灯（運転者異常時対応システムが当該自動車の制動装置を操作している場合に限る。）</p> <p>㉔ イモビライザ及び盗難発生警報装置の設定状態を灯光により通知する装置であって、車室外に備えるもの（光度が0.5cdを超えないものであり、かつ、見かけの表面の表面積が20cm²以下のものに限る。）</p> <p>㉕ アンサーバック機能を有する灯火</p> <p>(6) 自動車（緊急自動車を除く。）には、次に掲げる灯火と連動して作動する灯火（7-65 から 7-95 ままでに規定するものを除く。）及び次に掲げる灯火以外の灯火であって、自動車が右左折、進路の変更、加速、減速、停止その他の動作を行うとする旨を他の交通に対し指示することを目的としたものを備えてはならない。（細目告示第62条第7項関係、細目告示第140条第7項）</p> <p>① 制動灯 ② 補助制動灯 ③ 後退灯 ④ 方向指示器 ⑤ 補助方向指示器</p>	<p>第1条第1項第8号に規定する移動式クレーンに備える巻過防止装置、過負荷防止装置又は過負荷防止装置以外の過負荷を防止するための装置と連動する灯火</p> <p>⑯ 点滅又は光度の増減を手動によってのみ行うことができる構造を有する灯火</p> <p>⑰ 指定自動車等に備えられたものと同一の構造を有し、かつ、同一の位置に備えられた可変光度制御機能を有する灯火（尾灯、後部霧灯、後部上側端灯、制動灯、補助制動灯又は自動車の後面に備える方向指示器に限る。）及び光度可変型前部霧灯</p> <p>⑱ 法第75条の2第1項の規定に基づき指定を受けた特定共通構造部に備えられている可変光度制御機能を有する灯火（尾灯、後部霧灯、後部上側端灯、制動灯、補助制動灯又は自動車の後面に備える方向指示器に限る。）及び光度可変型前部霧灯又はこれに準ずる性能を有する可変光度制御機能を有する灯火（尾灯、後部霧灯、後部上側端灯、制動灯、補助制動灯又は自動車の後面に備える方向指示器に限る。）及び光度可変型前部霧灯</p> <p>⑲ 法第75条の3第1項の規定に基づき指定を受けた可変光度制御機能を有する灯火（尾灯、後部霧灯、後部上側端灯、制動灯、補助制動灯又は自動車の後面に備える方向指示器に限る。）及び光度可変型前部霧灯又はこれに準ずる性能を有する可変光度制御機能を有する灯火（尾灯、後部霧灯、後部上側端灯、制動灯、補助制動灯又は自動車の後面に備える方向指示器に限る。）及び光度可変型前部霧灯</p> <p>⑳ 路線を定めて定期に運行する一般乗合旅客自動車運送事業用自動車及び一般乗用旅客自動車運送事業用自動車に備える旅客が乗降中であることを後方に表示する電光表示器</p> <p>㉑ 緊急自動車及び道路維持作業用自動車に備える他の交通に作業中であることを表示する電光表示器</p> <p>㉒ 運転者異常時対応システムが当該自動車を制御していることを他の交通に対して表示するための電光表示器</p> <p>㉓ 制動灯及び補助制動灯（運転者異常時対応システムが当該自動車の制動装置を操作している場合に限る。）</p> <p>㉔ イモビライザ及び盗難発生警報装置の設定状態を灯光により通知する装置であって、車室外に備えるもの（光度が0.5cdを超えないものであり、かつ、見かけの表面の表面積が20cm²以下のものに限る。）</p> <p>㉕ アンサーバック機能を有する灯火</p> <p>(6) 自動車（緊急自動車を除く。）には、次に掲げる灯火と連動して作動する灯火（8-65 から 8-95 ままでに規定するものを除く。）及び次に掲げる灯火以外の灯火であって、自動車が右左折、進路の変更、加速、減速、停止その他の動作を行うとする旨を他の交通に対し指示することを目的としたものを備えてはならない。（細目告示第218条第7項）</p> <p>① 制動灯 ② 補助制動灯 ③ 後退灯 ④ 方向指示器 ⑤ 補助方向指示器</p>

第7章 新規検査、予備検査、継続検査又は構造等変更検査	第8章 新規検査、予備検査、継続検査又は構造等変更検査 (改造等による変更のない使用過程車)
<p>⑥ 緊急制動表示灯</p> <p>⑦ 後面衝突警告表示灯</p> <p>⑧ 速度表示装置の速度表示灯</p> <p>⑨ 運転者異常時対応システムが当該自動車を制御していることを他の交通に対して表示するための電光表示器</p> <p>(7) 自動車には、次に掲げるものを除き、反射光の色が赤色である反射器であって前方に表示するもの又は反射光の色が白色である反射器であって後方に表示するものを備えてはならない。(細目告示第62条第8項関係、細目告示第140条第8項関係)</p> <p>① 指定自動車等に備えられた前部赤色反射物と同一の構造を有し、かつ、同一の位置に備えられた反射物</p> <p>② 専ら乗用の用に供する乗車定員10人以上の自動車の後部に備える白色反射物であって、UN R110-04-S2の18.1.8.1.から18.1.8.3.までに掲げるもの及びUN R134-01の7.1.7.に掲げるもの</p> <p>③ 7-87の規定により自動車の側面に備える特徴等表示再帰反射材であって、赤色の反射光を前方に表示するもの及び7-87の規定により自動車の側面に備える再帰反射材であって、白色の反射光を後方に表示するもの</p> <p>(8) 自動車には、7-65から7-95までに規定する灯火の性能を損なうおそれのある灯火及び反射器を備えてはならない。(細目告示第62条第9項、細目告示第140条第9項)</p> <p>(9) 自動車に備える灯火の直射光又は反射光は、その自動車及び他の自動車の運転操作を妨げるものであってはならない。(細目告示第62条第10項、細目告示第140条第10項)</p> <p>(10) (1) ②から⑦まで及び⑮に掲げる灯火((1) ④に掲げる灯火にあっては自動車の後面に備えるものに限る。)は、前方を照射し、又は前方に表示するものであってはならない。</p> <p>この場合において、指定自動車等に備えられた側面に回り込む赤色の照明部を有する後方に表示する灯火と同一の構造を有し、かつ、同一の位置に備えられたものは、この基準に適合するものとする。(細目告示第62条第9項関係、細目告示第140条第9項関係)</p> <p>(11) 自動車に備える灯火は、前照灯、前部霧灯、側方照射灯、低速走行時側方照射灯、側方灯、昼間走行灯、番号灯、後部霧灯((5) ⑰から⑲に掲げるものに限る。)、後面に備える駐車灯、制動灯、後退灯、方向指示器、補助方向指示器、非常点滅表示灯、緊急制動表示灯、後面衝突警告表示灯、速度表示装置の速度表示灯、室内照明灯、緊急自動車の警光灯、道路維持作業用自動車の灯火、自主防犯活動用自動車の青色防犯灯、火薬類又は放射性物質等を積載していることを表示するための灯火、旅客自動車運送事業用自動車の非常灯、旅客自動車運送事業用乗合自動車の車椅子昇降用ステップリフトに備える赤色の灯火であって運転者席で点灯できないもの、緊急自動車及び道路維持作業用自動車に備える他の交通に作業中であることを表示する電光表示器、運転者異常時対応システムが当該自動車を制御していることを他の交通に対して表示するための電光表示器、運転者席で点灯できない作業灯、運転者席において点</p>	<p>⑥ 緊急制動表示灯</p> <p>⑦ 後面衝突警告表示灯</p> <p>⑧ 速度表示装置の速度表示灯</p> <p>⑨ 運転者異常時対応システムが当該自動車を制御していることを他の交通に対して表示するための電光表示器</p> <p>(7) 自動車には、次に掲げるものを除き、反射光の色が赤色である反射器であって前方に表示するもの又は反射光の色が白色である反射器であって後方に表示するものを備えてはならない。(細目告示第218条第8項関係、適用関係告示第48条5項関係)</p> <p>① 指定自動車等に備えられた前部赤色反射物と同一の構造を有し、かつ、同一の位置に備えられた反射物</p> <p>② 専ら乗用の用に供する乗車定員10人以上の自動車の後部に備える白色反射物であって、8-25-1-1(2)⑩、8-25-1-1(5)④及び8-25-1-1(6)④に掲げるもの</p> <p>③ 量産型超小型モビリティに備える8-35-1(4)の車体表示</p> <p>④ 7-87の規定により自動車の側面に備える特徴等表示再帰反射材であって、赤色の反射光を前方に表示するもの及び7-87の規定により自動車の側面に備える再帰反射材であって、白色の反射光を後方に表示するもの</p> <p>(8) 自動車には、8-65から8-95までに規定する灯火の性能を損なうおそれのある灯火及び反射器を備えてはならない。(細目告示第218条第9項)</p> <p>(9) 自動車に備える灯火の直射光又は反射光は、その自動車及び他の自動車の運転操作を妨げるものであってはならない。(細目告示第218条第8項)</p> <p>(10) (1) ②から⑦まで及び⑮に掲げる灯火((1) ④に掲げる灯火にあっては自動車の後面に備えるものに限る。)は、前方を照射し、又は前方に表示するものであってはならない。</p> <p>この場合において、指定自動車等に備えられた側面に回り込む赤色の照明部を有する後方に表示する灯火と同一の構造を有し、かつ、同一の位置に備えられたものは、この基準に適合するものとする。(細目告示第218条第9項関係)</p> <p>(11) 自動車に備える灯火は、前照灯、前部霧灯、側方照射灯、低速走行時側方照射灯、側方灯、昼間走行灯、番号灯、後部霧灯((5) ⑰から⑲に掲げるものに限る。)、後面に備える駐車灯、制動灯、後退灯、方向指示器、補助方向指示器、非常点滅表示灯、緊急制動表示灯、後面衝突警告表示灯、速度表示装置の速度表示灯、室内照明灯、緊急自動車の警光灯、道路維持作業用自動車の灯火、自主防犯活動用自動車の青色防犯灯、火薬類又は放射性物質等を積載していることを表示するための灯火、旅客自動車運送事業用自動車の非常灯、旅客自動車運送事業用乗合自動車の車椅子昇降用ステップリフトに備える赤色の灯火であって運転者席で点灯できないもの、緊急自動車及び道路維持作業用自動車に備える他の交通に作業中であることを表示する電光表示器、運転者異常時対応システムが当該自動車を制御していることを他の交通に対して表示するための電光表示器、運転者席で点灯できない作業灯、運転者席において点</p>

第7章 新規検査、予備検査、継続検査又は構造等変更検査	第8章 新規検査、予備検査、継続検査又は構造等変更検査 (改造等による変更のない使用過程車)
<p>灯状態であるため走行してはならないことを確認できる装置(ON/OFFが容易に確認できる構造のスイッチを含む。)を備えた作業灯、アンサーバック機能を有する灯火及び走行中に使用しない灯火(前面に備える駐車灯を除く。)を除き、光度が300cd以下のものでなければならない。(細目告示第62条第12項関係、細目告示第140条第12項関係)</p> <p>(12) 火薬類又は放射性物質等を積載していることを表示するための灯火は、他の灯火と兼用のものであってはならない。(細目告示第62条第13項、細目告示第140条第13項)</p> <p>7-96-2 欠番 7-96-3 欠番</p>	<p>灯状態であるため走行してはならないことを確認できる装置(ON/OFFが容易に確認できる構造のスイッチを含む。)を備えた作業灯、アンサーバック機能を有する灯火及び走行中に使用しない灯火(前面に備える駐車灯を除く。)を除き、光度が300cd以下のものでなければならない。(細目告示第218条第12項関係)</p> <p>(12) 火薬類又は放射性物質等を積載していることを表示するための灯火は、他の灯火と兼用のものであってはならない。(細目告示第218条第11項)</p> <p>8-96-2 欠番 8-96-3 欠番 8-96-4 適用関係の整理 7-96-4の規定を適用する。</p>
<p>7-96-4 適用関係の整理</p> <p>(1) 昭和48年11月30日以前に製作された自動車については、7-96-5(従前規定の適用①)の規定を適用する。(適用関係告示第48条第2項第1号関係)</p> <p>(2) 昭和50年11月30日以前に製作された自動車については、7-96-6(従前規定の適用②)の規定を適用する。(適用関係告示第48条第2項第2号関係)</p> <p>(3) 平成17年12月31日以前に製作された自動車については、7-96-7(従前規定の適用③)の規定を適用する。(適用関係告示第48条第1項関係)</p> <p>7-96-5 従前規定の適用①</p> <p>昭和48年11月30日以前に製作された自動車については、次の基準に適合するものであればよい。(適用関係告示第48条第2項第1号関係)</p> <p>7-96-5-1 装備要件</p> <p>(1) 自動車には、次に掲げる灯火を除き、後方を照射し若しくは後方に表示する灯光の色が橙色である灯火で照明部の上縁が地上2,500mm以下のもの又は灯光の色が赤色である灯火を備えてはならない。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 尾灯 ② 後部霧灯 ③ 駐車灯 ④ 後部上側端灯 ⑤ 制動灯 ⑥ 補助制動灯 ⑦ 方向指示器 ⑧ 補助方向指示器 ⑨ 非常点滅表示灯 ⑩ 緊急自動車の警光灯 ⑪ 火薬類又は放射性物質等を積載していることを表示するための灯火 ⑫ 旅客自動車運送事業用自動車の地上2,500mmを超える高さの位置に備える後方に表示するための灯火(後部上側端灯を除く。) ⑬ 一般乗合旅客自動車運送事業の用に供する自動車の終車灯 ⑭ 一般乗用旅客自動車運送事業の用に供する自動車の空車灯及び料金灯 ⑮ 旅客自動車運送事業用自動車の非常灯 ⑯ 旅客自動車運送事業用乗合自動車の車椅子昇降用ステップリフトに備える赤色の灯火であって運転者席で点灯できないもの ⑰ アンサーバック機能を有する灯火 ⑱ 走行中に使用しない灯火 <p>(2) 自動車には、次に掲げる灯火を除き、後方を照射し又は後方に表示する灯光の色が白色である灯火を備えてはならない。この場合において、指定自動車等に備えられた車体側面に備える白色の灯火(いわゆるコーチランプ)と同一の構造を有し、かつ、同一の位置に備えられた白色の灯火は、この基準に適合するものとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 番号灯 ② 後退灯 ③ 室内照明灯 ④ 一般乗合旅客自動車運送事業の用に供する自動車の方向幕灯及び行先等を連続表示する電光表示器 ⑤ 一般乗用旅客自動車運送事業の用に供する自動車の社名表示灯 ⑥ 運転者席で点灯できない作業灯 	

第7章 新規検査、予備検査、継続検査又は構造等変更検査	第8章 新規検査、予備検査、継続検査又は構造等変更検査 (改造等による変更のない使用過程車)
<p>⑦ 運転者席において点灯状態であるため走行してはならないことを確認できる装置を備えた作業灯(走行装置に動力を伝達できる場合にのみ点灯できる構造のものを除く。)</p> <p>⑧ アンサーバック機能を有する自動車</p> <p>⑨ 走行中に使用しない灯火</p> <p>(3) 自動車(一般乗合旅客自動車運送事業の用に供する自動車を除く。)の前面ガラスの上方には、灯光の色が青紫色である灯火を備えてはならない。</p> <p>(4) 自動車の前面ガラスの上方には、速度表示装置の速度表示灯と紛らわしい灯火を備えてはならない。</p> <p>(5) 自動車には、次に掲げる灯火を除き、点滅する灯火又は光度が増減する灯火を備えてはならない。 この場合において、点滅又は光度の増減を手動によってのみ行うことのできる構造を有する灯火は、「点滅する灯火又は光度が増減する灯火」とされないものとする。</p> <p>① 配光可変型前照灯</p> <p>② 方向指示器</p> <p>③ 補助方向指示器</p> <p>④ 非常点滅表示灯</p> <p>⑤ 緊急自動車の警光灯</p> <p>⑥ 道路維持作業用自動車の灯火</p> <p>⑦ 非常灯(旅客自動車運送事業用自動車に備えるもの及び室内照明灯と兼用するものに限る。)</p> <p>⑧ 自主防犯活動用自動車の青色防犯灯</p> <p>⑨ アンサーバック機能を有する灯火</p> <p>(6) 自動車には、次に掲げるものを除き、反射光の色が赤色である反射器であって前方に表示するもの又は反射光の色が白色である反射器であって後方に表示するものを備えてはならない。</p> <p>① 指定自動車等に備えられた前部赤色反射物と同一の構造を有し、かつ、同一の位置に備えられた反射物</p> <p>② 専ら乗用の用に供する乗車定員10人以上の自動車の後部に備える白色反射物であって、UN R110-04-S2の18.1.8.1.から18.1.8.3.までに掲げるもの及びUN R134-01の7.1.7.に掲げるもの</p> <p>③ 7-87の規定により自動車の側面に備える特徴等表示再帰反射材であって、赤色の反射光を前方に表示するもの及び7-87の規定により自動車の側面に備える再帰反射材であって、白色の反射光を後方に表示するもの</p> <p>(7) 自動車に備える灯火の直射光(前照灯にあつては、すれ違い用前照灯の直射光)又は反射光は、その自動車及び他の自動車の運転操作を妨げるものであってはならない。</p> <p>(8) 自動車に備える灯火は、前照灯、前部霧灯、側方照射灯、番号灯、尾灯、後面に備える駐車灯、制動灯、補助制動灯、後退灯、方向指示器、補助方向指示器、非常点滅表示灯、速度表示装置の速度表示灯、室内照明灯、緊急自動車の警光灯、道路維持作業用自動車の灯火、自主防犯活動用自動車の青色防犯灯、火薬類又は放射性物質等を積載していることを表示するための灯火、旅客自動車運送事業用自動車の非常灯、旅客自動車運送事業用乗合自動車の車椅子昇降用ステップリフトに備える赤色の灯火であつて運転者席で点灯できないもの、運転者席で点灯できない作業灯、運転者席において点灯状態であるため走行してはならないことを確認できる装置を備えた作業灯、アンサーバック機能を有する灯火及び走行中に使用しない灯火(前面に備える駐車灯を除く。)を除き、光度が300cd以下のものでなければならない。</p> <p>(9) 火薬類又は放射性物質等を積載していることを表示するための灯火及び補助制動灯は、他の灯火と兼用のものであってはならない。</p> <p>7-96-6 従前規定の適用② 昭和50年11月30日以前に製作された自動車については、次の基準に適合するものであればよい。(適用関係告示第48条第2項第2号関係)</p> <p>7-96-6-1 装備要件</p> <p>(1) 自動車には、次に掲げる灯火を除き、後方を照射し若しくは後方に表示する灯光の色が橙色である灯火で照明部の上縁が地上2,500mm以下のもの又は灯光の色が赤色である灯火を備えてはならない。</p> <p>① 尾灯</p> <p>② 後部霧灯</p> <p>③ 駐車灯</p> <p>④ 後部上側端灯</p> <p>⑤ 制動灯</p> <p>⑥ 補助制動灯</p> <p>⑦ 方向指示器</p> <p>⑧ 補助方向指示器</p> <p>⑨ 非常点滅表示灯</p> <p>⑩ 緊急自動車の警光灯</p> <p>⑪ 火薬類又は放射性物質等を積載していることを表示するための灯火</p> <p>⑫ 旅客自動車運送事業用自動車の地上2,500mmを超える高さの位置に備える後方に表示するための灯火(後部上側端灯を除く。)</p>	

第7章 新規検査、予備検査、継続検査又は構造等変更検査	第8章 新規検査、予備検査、継続検査又は構造等変更検査 (改造等による変更のない使用過程車)
<p>⑬ 一般乗合旅客自動車運送事業の用に供する自動車の終車灯</p> <p>⑭ 一般乗用旅客自動車運送事業の用に供する自動車の空車灯及び料金灯</p> <p>⑮ 旅客自動車運送事業用自動車の非常灯</p> <p>⑯ 旅客自動車運送事業用乗合自動車の車椅子昇降用ステップリフトに備える赤色の灯火であって運転者席で点灯できないもの</p> <p>⑰ アンサーバック機能を有する灯火</p> <p>⑱ 走行中に使用しない灯火</p> <p>(2) 自動車には、次に掲げる灯火を除き、後方を照射し又は後方に表示する灯光の色が白色である灯火を備えてはならない。 この場合において、指定自動車等に備えられた車体側面に備える白色の灯火（いわゆるコーチランプ）と同一の構造を有し、かつ、同一の位置に備えられた白色の灯火は、この基準に適合するものとする。</p> <p>① 番号灯</p> <p>② 後退灯</p> <p>③ 室内照明灯</p> <p>④ 一般乗合旅客自動車運送事業の用に供する自動車の方向幕灯及び行先等を連続表示する電光表示器</p> <p>⑤ 一般乗用旅客自動車運送事業の用に供する自動車の社名表示灯</p> <p>⑥ 運転者席で点灯できない作業灯</p> <p>⑦ 運転者席において点灯状態であるため走行してはならないことを確認できる装置を備えた作業灯（走行装置に動力を伝達できる場合にのみ点灯できる構造のものを除く。）</p> <p>⑧ アンサーバック機能を有する灯火</p> <p>⑨ 走行中に使用しない灯火</p> <p>(3) 自動車（一般乗合旅客自動車運送事業の用に供する自動車を除く。）の前面ガラスの上方には、灯光の色が青紫色である灯火を備えてはならない。</p> <p>(4) 自動車の前面ガラスの上方には、速度表示装置の速度表示灯と紛らわしい灯火を備えてはならない。</p> <p>(5) 自動車には、次に掲げる灯火を除き、点滅する灯火又は光度が増減する灯火を備えてはならない。 この場合において、点滅又は光度の増減を手動によってのみ行うことのできる構造を有する灯火は、「点滅する灯火又は光度が増減する灯火」とされないものとする。</p> <p>① 配光可変型前照灯</p> <p>② 方向指示器</p> <p>③ 補助方向指示器</p> <p>④ 非常点滅表示灯</p> <p>⑤ 緊急自動車の警光灯</p> <p>⑥ 道路維持作業用自動車の灯火</p> <p>⑦ 非常灯（旅客自動車運送事業用自動車に備えるもの及び室内照明灯と兼用するものに限る。）</p> <p>⑧ 自主防犯活動用自動車の青色防犯灯</p> <p>⑨ アンサーバック機能を有する灯火</p> <p>(6) 自動車には、次に掲げるものを除き、反射光の色が赤色である反射器であって前方に表示するもの又は反射光の色が白色である反射器であって後方に表示するものを備えてはならない。</p> <p>① 指定自動車等に備えられた前部赤色反射物と同一の構造を有し、かつ、同一の位置に備えられた反射物</p> <p>② 専ら乗用の用に供する乗車定員 10 人以上の自動車の後部に備える白色反射物であって、UN R110-04-S2 の 18.1.8.1. から 18.1.8.3. までの掲げるもの及び UN R134-01 の 7.1.7. に掲げるもの</p> <p>③ 7-87 の規定により自動車の側面に備える特徴等表示再帰反射材であって、赤色の反射光を前方に表示するもの及び 7-87 の規定により自動車の側面に備える再帰反射材であって、白色の反射光を後方に表示するもの</p> <p>(7) 自動車に備える灯火の直射光（前照灯にあっては、すれ違い用前照灯の直射光）又は反射光は、その自動車及び他の自動車の運転操作を妨げるものであってはならない。</p> <p>(8) (1) ①から⑥まで及び⑩に掲げる灯火（(1) ③に掲げる灯火にあっては自動車の後面に備えるものに限る。）は、前方を照射し、又は前方に表示するものであってはならない。 この場合において、指定自動車等に備えられた側面に回り込む赤色の照明部を有する後方に表示する灯火と同一の構造を有し、かつ、同一の位置に備えられたものは、「前方を照射し、又は前方に表示するもの」とされないものとする。</p> <p>(9) 自動車に備える灯火は、前照灯、前部雾灯、側方照射灯、番号灯、尾灯、後面に備える駐車灯、制動灯、補助制動灯、後退灯、方向指示器、補助方向指示器、非常点滅表示灯、速度表示装置の速度表示灯、室内照明灯、緊急自動車の警光灯、道路維持作業用自動車の灯火、自主防犯活動用自動車の青色防犯灯、火薬類又は放射性物質等を積載していることを表示するための灯火、旅客自動車運送事業用自動車の非常灯、旅客自動車運送事業用乗合自動車の車椅子昇降用ステップリフトに備える赤色の灯火であって運転者席で点灯できないもの、運転者席で点灯できない作業灯、運転者席において点灯状態であるため走行してはならないことを確認できる装置を備えた作業灯、アンサーバック機能を有する灯火及び走行中に使用しない灯火（前面に備える駐車灯を除く。）を除き、光度が 300cd 以下のものでなければならない。</p> <p>(10) 火薬類又は放射性物質等を積載していることを表示するための灯火及び補助制動灯は、他の灯火と兼用のものであっては</p>	

第7章 新規検査、予備検査、継続検査又は構造等変更検査

第8章 新規検査、予備検査、継続検査又は構造等変更検査
(改造等による変更のない使用過程車)

ならない。

7-96-7 従前規定の適用③

平成17年12月31日以前に製作された自動車については、次の基準に適合するものであればよい。(適用関係告示第48条第1項関係)

7-96-7-1 装備要件

(1) 自動車には、次に掲げる灯火を除き、後方を照射し若しくは後方に表示する灯光の色が橙色である灯火で照明部の上縁が地上2,500mm以下のもの又は灯光の色が赤色である灯火を備えてはならない。

- ① 側方灯
- ② 尾灯
- ③ 後部雾灯
- ④ 駐車灯
- ⑤ 後部上側端灯
- ⑥ 制動灯
- ⑦ 補助制動灯
- ⑧ 方向指示器
- ⑨ 補助方向指示器
- ⑩ 非常点滅表示灯
- ⑪ 緊急自動車の警光灯
- ⑫ 火薬類又は放射性物質等を積載していることを表示するための灯火
- ⑬ 旅客自動車運送事業用自動車の地上2,500mmを超える高さの位置に備える後方に表示するための灯火(後部上側端灯を除く。)
- ⑭ 一般乗合旅客自動車運送事業の用に供する自動車の終車灯
- ⑮ 一般乗用旅客自動車運送事業の用に供する自動車の空車灯及び料金灯
- ⑯ 旅客自動車運送事業用自動車の非常灯
- ⑰ 旅客自動車運送事業用乗合自動車の車椅子昇降用ステップリフトに備える赤色の灯火であって運転者席で点灯できないもの
- ⑱ アンサーバック機能を有する灯火
- ⑲ 走行中に使用しない灯火

(2) 自動車には、次に掲げる灯火を除き、後方を照射し又は後方に表示する灯光の色が白色である灯火を備えてはならない。
この場合において、指定自動車等に備えられた車体側面に備える白色の灯火(いわゆるコーチランプ)と同一の構造を有し、かつ、同一の位置に備えられた白色の灯火は、この基準に適合するものとする。

- ① 番号灯
- ② 後退灯
- ③ 室内照明灯
- ④ 一般乗合旅客自動車運送事業の用に供する自動車の方向幕灯及び行先等を連続表示する電光表示器
- ⑤ 一般乗用旅客自動車運送事業の用に供する自動車の社名表示灯
- ⑥ 運転者席で点灯できない作業灯
- ⑦ 運転者席において点灯状態であるため走行してはならないことを確認できる装置を備えた作業灯(走行装置に動力を伝達できる場合にのみ点灯できる構造のものを除く。)
- ⑧ アンサーバック機能を有する灯火
- ⑨ 走行中に使用しない灯火

(3) 自動車(一般乗合旅客自動車運送事業の用に供する自動車を除く。)の前面ガラスの上方には、灯光の色が青紫色である灯火を備えてはならない。

(4) 自動車の前面ガラスの上方には、速度表示装置の速度表示灯と紛らわしい灯火を備えてはならない。

(5) 自動車には、次に掲げる灯火を除き、点滅する灯火又は光度が増減する灯火を備えてはならない。

この場合において、点滅又は光度の増減を手動によってのみ行うことのできる構造を有する灯火は、「点滅する灯火又は光度が増減する灯火」とされないものとする。

- ① 配光可変型前照灯
- ② 側方灯
- ③ 方向指示器
- ④ 補助方向指示器
- ⑤ 非常点滅表示灯
- ⑥ 緊急自動車の警光灯
- ⑦ 道路維持作業用自動車の灯火
- ⑧ 非常灯(旅客自動車運送事業用自動車に備えるもの及び室内照明灯と兼用するものに限る。)
- ⑨ 自主防犯活動用自動車の青色防犯灯

第7章 新規検査、予備検査、継続検査又は構造等変更検査	第8章 新規検査、予備検査、継続検査又は構造等変更検査 (改造等による変更のない使用過程車)
<p>⑩ アンサーバック機能を有する灯火</p> <p>(6) 自動車には、次に掲げるものを除き、反射光の色が赤色である反射器であって前方に表示するもの又は反射光の色が白色である反射器であって後方に表示するものを備えてはならない。</p> <p>① 指定自動車等に備えられた前部赤色反射物と同一の構造を有し、かつ、同一の位置に備えられた反射物</p> <p>② 専ら乗用の用に供する乗車定員 10 人以上の自動車の後部に備える白色反射物であって、UN R110-04-S2 の 18.1.8.1. から 18.1.8.3. までに掲げるもの及び UN R134-01 の 7.1.7. に掲げるもの</p> <p>③ 7-87 の規定により自動車の側面に備える特徴等表示再帰反射材であって、赤色の反射光を前方に表示するもの及び 7-87 の規定により自動車の側面に備える再帰反射材であって、白色の反射光を後方に表示するもの</p> <p>(7) 自動車に備える灯火の直射光（前照灯にあつては、すれ違い用前照灯の直射光）又は反射光は、その自動車及び他の自動車の運転操作を妨げるものであってはならない。</p> <p>(8) (1) ①から⑦まで及び⑩に掲げる灯火（(1) ①に掲げる灯火にあつては自動車の両側面の後部に備える赤色のものに限り、(1) ④に掲げる灯火にあつては自動車の後面に備えるものに限る。）は、前方を照射し、又は前方に表示するものであってはならない。</p> <p>この場合において、指定自動車等に備えられた側面に回り込む赤色の照明部を有する後方に表示する灯火と同一の構造を有し、かつ、同一の位置に備えられたものは、「前方を照射し、又は前方に表示するもの」とされないものとする。</p> <p>(9) 自動車に備える灯火は、前照灯、前部霧灯、側方照射灯、側方灯、番号灯、尾灯、後面に備える駐車灯、制動灯、補助制動灯、後退灯、方向指示器、補助方向指示器、非常点滅表示灯、速度表示装置の速度表示灯、室内照明灯、緊急自動車の警光灯、道路維持作業用自動車の灯火、自主防犯活動用自動車の青色防犯灯、火薬類又は放射性物質等を積載していることを表示するための灯火、旅客自動車運送事業用自動車の非常灯、旅客自動車運送事業用乗合自動車の車椅子昇降用ステップリフトに備える赤色の灯火であつて運転者席で点灯できないもの、運転者席で点灯できない作業灯、運転者席において点灯状態であるため走行してはならないことを確認できる装置を備えた作業灯、アンサーバック機能を有する灯火及び走行中に使用しない灯火（前面に備える駐車灯を除く。）を除き、光度が 300cd 以下のものでなければならない。</p> <p>(10) 火薬類又は放射性物質等を積載していることを表示するための灯火及び補助制動灯は、他の灯火と兼用のものであってはならない。</p>	